

<概況>

設置管理者	国土交通大臣
位置	N 42° 46′ 31″ E 141° 41′ 33″
標高	21.3m
面積	728ha
着陸帯	[A] 3,120m × 300m A級 [B] 3,120m × 300m A級
滑走路	[A] 3,000m × 60m LA-1 [B] 3,000m × 60m LA-1
誘導路	16,612m × 23～58m
エプロン	826,504㎡ LJ53、MJ3、SJ8
航空保安施設等	ILS CAT-Ⅰ 01R、01L、19L ILS CAT-Ⅲ 19R
駐車場	5,227台
ターミナルビル	349,985㎡
運用時間	00:00～24:00

出典：令和4年2月24日国土交通省告示第260号

<沿革>（一部、千歳飛行場含む）

大正15年10月	住民奉仕による着陸場完成
昭和12年9月	旧海軍飛行場設置
昭和20年10月	米軍接收
昭和36年12月	公共用飛行場の政令指定
昭和50年9月	新空港建設事業着手
昭和63年7月	新千歳空港開港（A滑走路 3,000m）
平成元年6月	国際定期航路開設
平成4年7月	新ターミナル地区供用開始 JR新千歳空港駅開業
平成5年5月	B滑走路整備事業着手
平成6年6月	新千歳空港24時間開港運用開始
平成8年4月	B滑走路供用開始（3,000m）
平成22年3月	国際線旅客ターミナルビル供用開始
平成23年7月	国内線ターミナルリニューアルオープン
平成28年1月	国際線乗降客数（平成27年暦年）が200万人を突破
平成28年3月	B滑走路19L側 ILS供用開始（ILS双方化）
平成28年11月	国際線ターミナル地域再編事業着手
平成29年1月	国際線乗降客数（平成28年暦年）が250万人を突破
平成30年1月	国際線乗降客数（平成29年暦年）が300万人を突破
平成30年7月	誘導路複線化事業着手
平成31年1月	国際線乗降客数（平成30年暦年）が350万人を突破
令和2年1月	乗降客数（令和元年暦年）が2,400万人を突破
令和2年6月	北海道エアポート（株）による運営事業開始